

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名 ※	健康とスポーツ	単位数 ※	2 単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	水曜日 1 限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	6-215
学修分野			
授業目的 ※	生体の持つ特性の一つに、生体適応が挙げられます。それは、運動刺激が適切であれば生体機能は向上し、もし運動刺激が少なれば機能低下が生じ、また運動刺激が強すぎると障害が引き起こされるという現象です。体力と健康の密接な関係から運動ならびにスポーツの重要度は増しているものの、トレーニング過多によりスポーツ障害が発生します。したがって、スポーツにおいて、個々人に対する適切なトレーニング刺激が必要とされます。この「健康とスポーツ」では、体力の維持・増進ならびに健康づくりをめざす運動や競技力向上をめざすスポーツにおいて、安全な実施の基盤となるスポーツ医学の基礎と応用について学んでいきます。		
到達目標	健康ならびに運動・スポーツに携わる専門家に必要とされる、運動生理学ならびにスポーツ科学に基づく健康とスポーツについて理解し説明できる。		
授業内容 授業形態 ※	「健康とスポーツ」では、運動・スポーツの生理学的基礎理論の理解を踏まえ、日常生活において自発的かつ積極的な運動・スポーツ実践に発展させていくことを目標とする実用的な内容を目指します。この授業では、グループでのディスカッションやグループごとの発表なども行います。		
評価方法 ※	定期試験60%、授業内での小テストおよびレポート課題などの平常点40%		
評価基準			
テキスト	原則としてプリントを配布します。		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科	
科目名 ※	スポーツ指導論		単位数 ※	2 単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	水曜日 1 限	
キャンパス※	千葉キャンパス		教室※	6-202
学修分野				
授業目的 ※	本授業では、日本のスポーツ界の現状と目指すべき方向性を正しく理解し、「スポーツ科学」や「一貫指導システム」など指導を实践するうえで、最も基本となるフィールドについて概説する。また指導者は「望ましいプレイヤー」とは何かを描く必要があり、そのうえで、プレイヤーの自発性、積極性を導きだすことの重要性を概説する。			
到達目標	本授業を通じてスポーツ指導者が社会に求められる背景と役割を説明できるようになる。			
授業内容 授業形態 ※	本授業では、スポーツ指導者の倫理や心構え等の重要性を学ぶ。さらに、世界をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割やプレイヤーと指導者の望ましい関係について学ぶ。また、指導計画のたて方やスポーツ活動と安全管理についても学ぶ。授業の後半は、講義だけでなくグループワークを中心に行う。			
評価方法 ※	毎回の授業内小レポート・授業外学習（50％）及び定期試験に代わる授業外レポート（50％）とし、総合的に評価する。			
評価基準				
テキスト	指定テキストは特にない。必要な教材は随時配布もしくは紹介する			
注意事項				
授業シラバス				

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科	
科目名 ※	スポーツ経営・管理学		単位数 ※	2 単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	水曜日 2 限	
キャンパス※	千葉キャンパス		教室※	6-206
学修分野				
授業目的 ※	本授業では、総合型地域スポーツクラブの育成・運営を中心に、スポーツ経営学の基本的な考え方や構造・事業について概説する。			
到達目標	本授業は、日本スポーツ協会公認アシスタントマネージャーに対応する科目であることから、スポーツ経営学とは何か説明できるようになる。また総合型地域スポーツクラブを育成・運営する起業家精神とは何か説明できるようになる。			
授業内容 授業形態 ※	本授業は、総合型地域スポーツクラブの育成・運営を中心に、スポーツ経営学の基本的な考え方や構造・事業について学ぶ。また、総合型地域スポーツクラブが育成される社会的・政策的な背景や国民の運動・スポーツ実践についても学ぶ。これらの知識は、社会体育指導者のみならず、保健体育科教員、スポーツ行政等を目指す学生にも重要である。授業の後半は、講義だけでなくグループワークを中心に行う。			
評価方法 ※	毎回の授業内小レポート・授業外学習（50％）及び定期試験に代わる授業外レポート（50％）とし、総合的に評価する。			
評価基準				
テキスト	指定テキストは特にない。必要な教材は随時配布もしくは紹介する。			
注意事項				
授業シラバス				

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	家族社会学	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	水曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	5-201
学修分野			
授業目的 ※	少子高齢化が進むなかで、現代日本の家族はさまざまな問題に直面している。本講義のねらいは、現代日本の家族および家族を取りまく社会状況について理解を深めるところにある。		
到達目標	家族社会学における基礎概念や主要理論を理解することができる。統計資料等を根拠に家族の現状や変化を分析することができる。グローバル化する社会のなかで多様な価値観に支えられた家族の存在を認識し、彼らが直面している課題と支援について考えることができる。		
授業内容 授業形態 ※	家族に関する基礎概念や主要理論について解説するほか、未婚化、少子化、核家族化、小家族化、子ども虐待、高齢者介護といったトピックスを取り上げながら、家族の現状と家族が直面している諸問題を戦後の社会構造の変化や社会のグローバル化等と結びつけて考察していく。 授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。 【遠隔授業】 配信授業動画等に関して、質問や意見、課題の作成を求める。提出された課題とそれへの教員のコメントを全体で共有することで、双方向型授業（アクティブラーニング）とする。 【対面授業】 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法（ワークシート、感染対策を講じたディスカッション等）の手法を活用する。		
評価方法 ※	事前事後学習課題および授業内試験の成績で判断する。		
評価基準	事前学習・事後学習課題30点、授業内試験70点、合計100点		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	事前・事後学習を欠かさないこと。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策	
科目名 ※	健康科学と身体運動E		単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	水曜3限	
キャンパス※	千葉キャンパス		教室※	5-201
学修分野				
授業目的 ※	身体運動に関する目的及び意義の理解と身体運動に関する基本的な知識と技能を習得するとともに、健康に関する知識を習得し、健康を意識した考え方や行動、生涯スポーツについて学習し実践する力を身につける。			
到達目標	健康科学、スポーツ科学といった視点から健康と運動の関係性を理解する。 身体運動（スポーツ・フィットネス・レクリエーション等）の意義を理解し、実践する力を身につける。 生涯スポーツについて理解を深め、また、地域のスポーツ活動についてもより理解を深めることにより、生涯にわたり自ら進んでスポーツ活動に参加することが出来るようにする。			
授業内容 授業形態 ※	国民の生活を豊かにし、健康で充実したものにするための生活習慣の見直しや、生涯スポーツの必要性について理解するとともに、スポーツ科学等のスポーツに関わる事象について理解する。 生涯スポーツ施設の現状や総合型地域スポーツセンターについて学習することを通して、多様な視点から科学的で望ましい健康観やスポーツ観について学習し、生涯にわたってスポーツを行う意義や指導法について理解する。 パワーポイントや参考資料を基に、ともに考え理解を深めていく。 授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。 【対面授業】 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。実際の映像を紹介したり、小集団グループでのディスカッションやプレゼンテーションの機会を設けて理解を深める。また、学生に質問、意見を求め、ともに考え理解を深めていく。 【遠隔授業】 配信授業動画等に関して学生の質問や意見を求める。それらの意見及び教員の見解を受講生全員で共有することで、双方向型授業（アクティブラーニング）とする。			
評価方法 ※	小レポート及び事前事後の学習課題の内容、授業への参加状況（DVDの視聴の視聴レポート・リアクションペーパーの内容）と最終確認レポートによる授業内容の理解度によって評価を行う。			

評価基準	レポート・学習課題の内容および提出状況（事前事後学習）50点、DVDの視聴レポート（2回）10点、リアクションペーパーの提出回数及び内容 20点、最終的な授業内容理解度確認レポート 20点
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。
注意事項	健康に対する関心・意欲を持ち授業に参加すること。 事前学習・事後学習を欠かさないこと。
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉 コミュニティ政策
科目名 ※	政策立案論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	水曜4限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	5-101
学修分野			
授業目的 ※	本講義では、人間の主要の生活空間を「地域」として捉えた時に生じる発展の可能性を認識することを目的とする。なかでも「集客観光」面を実例とし、地域の魅力を増幅することで地域振興を実現する政策の立案及び実施手法を学ぶ。		
到達目標	①地域における「シビックプライド」を醸成する政策の提供価値を理解する ② 立案のためのメソッド各種を体得し、自らの見識を身に付ける ③ 課題の発見及び解決プロセスを経て提供価値を最大限に高める手法を養う		
授業内容 授業形態 ※	本講義では地域の魅力を発掘し、地域らしさをいかに具体化して、地域内外の方に提供できるか、を個人およびグループ学習から体得する。授業では、政策としての「提供価値」に自らの主体的な「介在価値」をどう盛り込めるかを意識して進めて行く。 授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため、2つの授業形態別に記す。新型コロナウイルス感染症の状況に応じて授業形態については変更があり得るが、講義、討論、サービスラーニング等を複合的に用いる。 【対面授業】 各回の講義の中で必要に応じて、アクティブラーニングの手法を活用する。質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設ける。 【遠隔授業】 オンライン会議システム（Zoom等）を通じて質問や意見を求める。そうした意見、教員の見解を受講生全員で共有することにより、双方向型授業(アクティブラーニング)とする。 【実務経験のある教員による授業科目】 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 詳細は以下をご参照ください。 ・民間からの専門職採用として千葉市観光プロモーション課課長を務め、同市の観光振興政策（インバウンド戦略立上げを含む）を数多く経験している。また、観光振興コンサルティング、情報発信経験も豊富で、観光情報誌の編集長から観光協会の専門員、行政の観光課課長、魅力発掘コンサルティングなど、長年にわたり、様々なポジションで、地域の観光振興を実現してきた経験を持つ。		
評価方法 ※	授業への参加姿勢（60点） 事前事後の学習・レポート（40点） ・授業への参加姿勢について：授業時間内に都度行なわれるアクティブラーニングフォームへの記入（全8回程度）結果において判断する。		

評価基準	授業参加の姿勢 （授業内での発言、各課題への対応状況など授業への取組み状況等）60点、レポート（事前事後学習）40点、 授業参加の姿勢点：36点以上、レポート（事前事後学習） 提出点：24点以上～59点：不可、60点～69点：C（合格）、70点～79点：B（合格） 80～89点：A（合格）、90～100点：S（合格）
テキスト	（ISBN番号：9784496055416） 『まちの魅力を引き出す編集力』（著者：桜井篤 発行元：(株)同友館 2021年）
注意事項	事前学習・事後学習を欠かさないこと。 毎回必ずノートをとること。このノートは講義の度にメモすることで、上期終了の際には、15回の講義内容の流れがわかり、自身の理解が体系的に築かれたことを知るのに役に立つ。 本講義をやむを得ない理由で欠席・遅刻・早退する場合は、前もって講師に相談すること。事後相談は原則として受け付けない。
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科	
科目名 ※	予防と介護		単位数 ※	2 単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	水曜日 4 限	
キャンパス※	千葉キャンパス		教室※	1-219
学修分野				
授業目的 ※	介護保険制度を理解する。 基本的な福祉用具の選定、住宅改修の知識を持つ。 介護予防に必要な改善プログラムの基礎知識を持つ。			
到達目標	日商で行われている検定試験の福祉住環境コーディネーター2級3級レベルの知識を有することができる。			
授業内容 授業形態 ※	超高齢化社会における地域医療を考え、福祉と住環境の関連分野の基礎的な知識について理解を深める。介護保険制度を理解し、介護保険における関連職種、各サービスの理解をする。ケアマネジメントを学び、アセスメントツール、福祉用具、住宅改修の知識を使い、ケアプランを立案してみる。介護予防における介護保険での支援と、地域支援事業での支援の違いを理解し、実際おこなわれている改善プログラムから、独自のプランを作成してみる。			
評価方法 ※	定期試験（筆記または、レポート）の成績、授業内の理解度で合わせて評価します。			
評価基準				
テキスト	福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級3級公式テキスト 東京商工会議所編			
注意事項				
授業シラバス				

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	法学B	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	金曜 3限
キャンパス※	敬愛大学稲毛キャンパス	教室※	別途指示する
学修分野			
授業目的 ※	社会生活に必然する法を理解するために必要な基本原理・原則・基礎理論、用語の学習を通して法律学(法学)への導入とし、次に社会生活における法的思考方法、法律的なものの考え方(legal mind)を具体的事例、判例などによって理解することを目的とします。		
到達目標	今日、とくとくと流れる国際社会のなかで言語習慣、考え方の相違する人達が共存していくために必要不可欠な学習に他なりません。これらのことを理解し日々の生活にいかせることです。		
授業内容 授業形態 ※	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開します。毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。授業内容に応じてデユベートやデスカッションを行い、それぞれのテーマを学生一人一人がフートバックし授業への参加意欲を高めます。		
評価方法 ※	平常点(授業内に適示おこなうリアクションペーパーや任意課題レポート)20%、確認試験80%で評価します。確認試験の解答は試験終了後に解説します。		
評価基準	秀:授業のねらい・内容を正しく理解しリーガル・マインドができるようになり、社会生活において適用できるようになる。 優:授業のねらいがほぼ達成できており、法的思考もできるレベルにある。 良:授業のねらい・内容が到達目標に 達成し,概要を正しく 説明できる。 可:授業のねらい・内容が到達目標に 達成している。 不可:授業のねらい・内容が達成されておらず概要を説明できない。		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版 (ISBN978-4-8429-1722-1)		
注意事項	授業内容をよりよく理解するため、予習においては、教科書等を読み(30分以上)、用語の確認、よく理解できない点を確認し(60分以上)、復習においては講義内容の復習(30分以上)や基本事項・重要事項・ポイントの理解確認、新聞等関連記事による生きた法学習に努め、これらのことを説明できるようにしましょう(60分以上)。		
授業シラバス	別途PDF参照		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経営学科												
科目名 ※	商業簿記Ⅱ	単位数 ※	2												
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	水-4												
キャンパス※		教室※	2-201												
学修分野															
授業目的 ※	企業の管理・運営について学んでいく上で、簿記・会計に関する知識は必要不可欠です。本講義では、企業の財貨の流れを記録・計算し、財務諸表(貸借対照表と損益計算書)を作成するという、簿記一巡の基本的な記帳技術を修得することを目標とします。 本講義は会計コース、金融コースの基礎となる講義です。会計コース、金融コース所属者は必ず履修し、目標とする資格を取得してください。なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に【経営学に関する専門知識や技能】の修得に資する科目です。 《参考》検定試験の難易度・授業と資格試験の対応(3年生以上は()の科目) <table><tr><td>資格</td><td>授業</td></tr><tr><td>(易)全経3級</td><td>商業簿記Ⅰ(初級簿記Ⅰ)／商業簿記答練Ⅰ(経営学・会計学特別講義A)</td></tr><tr><td>日商3級・全経2級</td><td>商業簿記Ⅱ(初級簿記Ⅱ)／商業簿記答練Ⅱ(商業簿記答練Ⅰ)</td></tr><tr><td>日商2級</td><td>商業簿記Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(中級簿記Ⅰ・Ⅱ)・工業簿記Ⅰ・Ⅱ</td></tr><tr><td></td><td>／商業簿記答練Ⅲ(商業簿記答練Ⅱ)・工業簿記答練</td></tr><tr><td>(難)全経1級・日商1級</td><td>商業簿記答練上級・工業簿記上級</td></tr></table>			資格	授業	(易)全経3級	商業簿記Ⅰ(初級簿記Ⅰ)／商業簿記答練Ⅰ(経営学・会計学特別講義A)	日商3級・全経2級	商業簿記Ⅱ(初級簿記Ⅱ)／商業簿記答練Ⅱ(商業簿記答練Ⅰ)	日商2級	商業簿記Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(中級簿記Ⅰ・Ⅱ)・工業簿記Ⅰ・Ⅱ		／商業簿記答練Ⅲ(商業簿記答練Ⅱ)・工業簿記答練	(難)全経1級・日商1級	商業簿記答練上級・工業簿記上級
資格	授業														
(易)全経3級	商業簿記Ⅰ(初級簿記Ⅰ)／商業簿記答練Ⅰ(経営学・会計学特別講義A)														
日商3級・全経2級	商業簿記Ⅱ(初級簿記Ⅱ)／商業簿記答練Ⅱ(商業簿記答練Ⅰ)														
日商2級	商業簿記Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(中級簿記Ⅰ・Ⅱ)・工業簿記Ⅰ・Ⅱ														
	／商業簿記答練Ⅲ(商業簿記答練Ⅱ)・工業簿記答練														
(難)全経1級・日商1級	商業簿記答練上級・工業簿記上級														
到達目標	中小規模企業が行う基本的な帳簿記入に関する手続(日商3級、全経2級程度)を身につけることを目標とします。 会計事務所等へのインターンシップなどで生かせる知識・技術を習得することを目標とします。														

授業内容 授業形態 ※	第1回 ガイダンス 商業簿記Ⅱ(初級簿記Ⅱ)の範囲の全体像 第2回 商品売買・有価証券の評価替え 第3回 固定資産の取得(建設)と売却 第4回 決算の手続き(1): 試算表の作成 第5回 決算の手続き(2): 収益・費用の見越・繰延と精算表 第6回 伝票会計、試算表の作成 第7回 精算表の作成 第8回 簿記一巡の手続き、中間試験 第9回 手形取引の処理(1): 手形の裏書と割引 第10回 手形取引の処理(2): 手形記入帳と営業外手形 第11回 債権債務: クレジット売掛金と電気記録債権債務 第12回 会社の設立と株式の発行 第13回 剰余金の配当の処理 第14回 本支店会計(1): 本支店間の取引の処理 第15回 本支店会計(2): 本支店合併財務諸表の作成
評価方法 ※	課題30%、中間試験10%、期末試験70%とします。 課題の間違が多い部分について次回授業時に解説します。
評価基準	
テキスト	蛭川幹夫『基本簿記』実教出版。 蛭川幹夫『基本簿記演習』実教出版。
注意事項	簿記の学習にあたり、問題演習は欠かせません。しかし、授業中に十分な演習時間を設けるには限りがあります。そこで、商業簿記答練Ⅱ(商業簿記答練Ⅰ)という別の授業で、商業簿記Ⅱ(初級簿記Ⅱ)の進度に合わせた問題演習を行っています。 商業簿記Ⅱ(初級簿記Ⅱ)と商業簿記答練Ⅱ(商業簿記答練Ⅰ)を同時に履修し、たくさん問題演習を行い、できるだけ確実に資格取得ができるように学習してください。 なお、当講義では日商簿記3級・全経2級試験を受験します。 また、商業簿記Ⅰ(初級簿記Ⅰ)の内容を扱いますので、商業簿記Ⅰ(初級簿記Ⅰ)を履修済みであるほうが望ましいです。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済・国際・教育学部
科目名 ※	憲法B	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	金曜 3限
キャンパス※	敬愛大学稲毛キャンパス	教室※	別途指示する
学修分野			
授業目的 ※	憲法の保障する原理や思想を近代憲法発展の歴史のなかで捉え、また、問題点などについて諸外国との比較や判例・学説を素材として平易に具体的に理解していくことを目的とします。		
到達目標	憲法の原理や考え方を正しく理解し説明できることです。		
授業内容 授業形態 ※	基本的に教科書にしたがって分かりやすい授業を展開していきますが、法学入門を併せて履習することが望ましいです。毎回の授業では前回学習した基礎事項・重要事項・ポイントの確認等によって学習へのフィードバックをおこない、次の授業項目へと進めていきます。 授業内容に応じてデユベートやデスカッションを行い、それぞれのテーマを学生一人一人がフートバックし授業への参加意欲を高めます。		
評価方法 ※	平常点(授業内に適示おこなうリアクションペーパーや任意課題レポート)20%、確認試験80%で評価します。確認試験の解答は試験終了後に解説します。		
評価基準	秀:授業のねらいを越えて憲法的思考を深めるレベルに達している。 優:授業のねらいがほぼ達成できており、憲法的思考もできるレベルにある 良:授業のねらい・内容が到達目標に 達成し,概要を正しく 説明できる。 可:授業のねらい・内容が到達目標に 達成している。 不可:授業のねらい・内容が達成されておらず概要を説明できない。		
テキスト	斎藤静敬・覚正豊和 共著『法学・憲法要説』八千代出版		
注意事項	授業内容をよりよく理解するため、予習においては、教科書等を読み(30分以上)、用語の確認、よく理解できない点を確認し(60分以上)、復習においては講義内容の復習(30分以上)や基本事項・重要事項・ポイントの理解確認に努め説明できるようにしましょう(60分以上)。		
授業シラバス	別途PDF参照		

※は必須記入事項